

観は素晴らしい、港内では釣糸を垂れ、余暇を楽しむ多くの人の姿が見られます。

■高島・祝津から赤岩海岸まで

旧高島村に面する海岸は、高島、祝津、赤岩の海岸です。高島は小樽港の漁港区として水産基地になっています。江戸時代には運上屋があつたニシン漁場であり、古い歴史を有するエリアです。

また、手宮地区では、丘の上の手宮公園から一望する小樽港の景



小樽港マリーナ

場所が平成2年にマリーナとして整備され、平成11年の商業施設（現ウイングベイ小樽）のオープンとともに、築港臨海公園が整備されました。公園前の海域は、市民レガッタ大会やヨット教室などが開催され、JR小樽築港駅から至近距離にある親水空間として魅力あるエリアであり、小樽市港湾計画では、「人々が海や港を通じて交流し、賑わいや憩いが創出される空間」として整備方針が示されています。

また、手宮地区では、丘の上の手宮公園から一望する小樽港の景



祝津海岸

二セコ積丹小樽海岸国定公園の一部に指定されており、貴重な自然環境が保護されています。国定公園内にあるおたる水族館の海獣公園は、外海に面した野趣あふれる施設として、本州から訪れる旅行者を驚かせています。

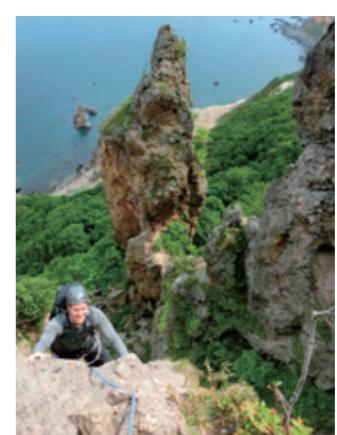
祝津からさらに西方は赤岩海岸

になりますが、この辺り一帯は、約1,000万年前の火山島であり、マグマが炎のように固まつた多くの岩脈が観察でき、ロッククライミングのメッカになっています。市内で国際山岳ガイドとして活躍するマウンテンガイドマイ

和氏は、かつて祝津の海岸について「ちょっとポルトガルのナザレの海岸を思い浮かべるような、ある種の人は（フランスの）ブルターニュの海岸を思い浮かべるような、非常に魅力的な一帯」と異国の海岸を彷彿とさせる海岸として高く評価しています。

また、祝津から蘭島海岸までは、オタモイ海岸、戦前にオタモイ遊園地や龍宮閣があつた景勝地として知られていますが、垂直に切り立つた海食崖がオタモイからモイ、塩谷、桃内、忍路、蘭島の海岸です。

旧塩谷村に面する海岸が、オタモイ、塩谷、桃内、忍路、蘭島の海岸です。オタモイ海岸は、戦前にオタモイ遊園地や龍宮閣があつた景勝地として知られていますが、垂直に切り立つた海食崖がオタモイから塩谷海岸まで約3kmにわたって続いており、地質的に大変貴重な景観を形成しています。また、この海食崖のある海域は、道内唯一の洞窟もこの海域にあります。



赤岩海岸

同様に祝津海岸もニシン漁場として繁栄を極めた地域です。現在も番屋や旧青山別邸などニシン漁家にゆかりのある歴史的建造物が数多く残り、往時の姿を今に伝えています。

一方で、著名な評論家の山崎正和氏は、かつて祝津の海岸について「ちょっとポルトガルのナザレの海岸を思い浮かべるような、ある種の人は（フランスの）ブルターニュの海岸を思い浮かべるような、非常に魅力的な一帯」と異国の海岸を彷彿とさせる海岸として高く評価しています。

の今井晋代表は、「このようなロツククライミングのフィールドの真下に海が広がる場所は、世界的にみても貴重」と話しており、赤岩ともあるそうです。

■オタモイから蘭島海岸まで

世界的な学会である、万国地質学会議（IGC）が京都で開催された際、各国の地質学者が日本各地でフィールドワークを行いましたが、北海道では忍路と赤岩の二ヵ所だけが選ばれており、世界的に注目を浴びている地域であることがわかります。

蘭島海岸は、北海道海水浴場発祥の地として、遠浅の砂浜は、古くから大勢の海水浴客で賑わった海岸の魅力を積極的にPRすることが必要と考えます。

塩谷海岸は、砂鉄分の多い黒みがかつた砂浜が特徴ですが、遠浅の海水浴場があり、シーカヤックやSUP（スタンダードアップパドルボード）などのマリンスポーツも盛んで、海食崖を海から眺めるツアーモーも催されています。特に塩谷海岸の夏の夕日は、鮮やかな水彩絵の具を空一面に溶かしたような、大変印象的な光景が広がり、塩谷海岸の魅力を積極的にPRすることが必要と考えます。

忍路海岸は、新たなトンネルの



塩谷海岸海食崖



塩谷海岸砂浜でのスタンドアップパドルボード



蘭島海岸

■海岸の活用による魅力向上

小樽に広がる海岸は、地質的な成り立ちや人の歴史との関わりがそれぞれ異なつており、バラエティに富んでいます。

一方、世界的なコロナ禍を通して、人々の志向が自然に回帰する傾向が見られます。小樽には、人の歴史とともに自然の歴史を語る地質的フィールドが特に海岸に広がっており、それも身近に触れることができる恵まれた環境があります。

海岸の利用には、海で経済活動を行う漁業者との十分な調整が必要になりますが、歴史を活かしたまちづくりに加え、海岸に代表される自然を活用することで、小樽のまちの魅力が一層向上するものと考えます。

蘭島海岸は、北海道海水浴場発祥の地として、遠浅の砂浜は、古くから大勢の海水浴客で賑わった海岸の魅力を積極的にPRすることが必要と考えます。

小樽西部は縄文遺跡も多く、昔から人が住むのに便利な土地